

平成 28 年 7 月吉日

チーム関係者各位

新潟市ミニバスケットボール連盟
会 長 小澤 勝美
理事長 近藤 秀之
審判委員長 小池 誠一
コミッショナー委員長 長谷川 廣一

マンツーマンコミッショナーの競技会（試合）における運用について

盛夏の候、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当連盟の活動や競技会へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、試合中に黄旗・赤旗が挙げた時の処置は、別途資料（当連盟 HP 掲載）にてお伝えしてありますが、同時にタイム・アウトの請求があった場合の処置について、以下の通りの運用となります。いま一度ご確認頂き、審判・コミッショナー・指導者の方は正しい運用に御協力頂きたくお願い申し上げます。

1. コミッショナーが黄旗（または赤旗）を挙げた場合、ゲームクロックが止まった際に、そのチームのベンチを指し、審判に伝達する。
2. 審判が両チームのヘッドコーチを T O 席前に集め、コミッショナーはその場で両チームのコーチに内容を説明する。コーチから選手に説明が必要な場合、T O 席前に 5 人の選手を集め説明をした後、速やかにゲームを再開させる。（タイム・アウトではないので、選手への説明を要する時以外は、選手はコート上で待機している。）
3. コミッショナーによる警告がテクニカル・ファウルを必要とするものであれば、コミッショナーの説明の後に、審判が当該コーチに対しテクニカル・ファウルを宣する。
4. コミッショナーの対応とタイム・アウトの請求が重なった場合は、コミッショナーの説明を済ませた後、審判がタイム・アウトを宣する。審判がタイム・アウトを宣した後、選手はコートの外に出たりベンチに座ることができる。
5. テクニカル・ファウルが適用される場合は、タイム・アウトの後、フリースローを行い、罰則によるスローインでゲームを再開する。

※詳しくは、JBA が提示する「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について_2016.3.25 改定版」をご参照下さい。（添付資料）

以上